

「全少」を日本一研究する指導者による提案

# ZENSHOに

# 挑戦しよう！



養正館館長・渡辺貴斗 第18回

男子と女子（その2）

## 女子を伸ばす指導者・男子を伸ばす指導者

### ◆男女で聞こえ方が違う

みなさんが小学生もしくは中学生だった頃、教室の後ろの方は、ザワザワうるさく話を聞いていない子が多かったと思います。前に座っている子たちは比較的よく話を聞く子達です。話をあまり聞いていない子供たちはほとんどが男子です。授業はつまらなそうにし、集中していませんでした。昔は、落ち着きの無い子と言われ、現代ではADHD（注意欠如多動性障害）と疑われてしまいます。しかし、単に机の配置が間違っていただけなのかもしれません。

近年、男子と女子で、聴く力に違いがあることが分かっています（※注）。男子は一般的に、大きな声で話さないで注意を向けてくれません。小さな声では子守唄のように眠くなりそうなので、本人には届いていません。女子は逆に近くで大きな声で話をすると、怒鳴られているように感じ、不快感をあらわにします。男子より女子の方が聴く力に優れている、つまり音に敏感なために起こる現象です。レナード・サックス著「男子の脳、女子の脳」では、女子は脳の“言語”に関する部位が、男子より6年も早く発達するとしています。

よって、クラスで席を決めるときは、集中力が無く、話を聞いていない大部分の男子を最前列に座らせ、女子や、きちんと話が聞ける少数の男子を後方に座らせるようにすると、全員が先生の声を丁度良い口調・音量で聞ける、と提唱しています。

私も道場において、男子の子を近くに座らせて話を聞かせます（遠くに座らせておくと、下を向いてマットを爪でガリガリひっかいています）。家

庭でも、女子には優しい口調で小さな声で語りかけ、男子には、はっきりした口調で言えば、こちらの意図が伝わるでしょう。また、女子は人との関係性を大事にするので、大声で厳しい口調で叱ると、指導者との関係性が壊れたと判断し、以後、修復できなくなることがありますので、女子への指導は要注意です。

※注 リーズ・エリオット著『女子の脳 男子の脳』では、女子の持つ“手先の器用さ”などと関連して女子は聴覚に優れているように見えるだけ、と聴く力自体に男女差は無いと主張している。

### ◆女子を伸ばす指導者・男子を伸ばす指導者

マラソンで多くのメダリストを輩出した小出義雄監督の教え子たちは、高橋尚子選手、有森裕子選手を初め、女子選手ばかりです。空手界でも、優秀な選手は“みんな男子ばかり”という道場もあります。どうやら、「女子への指導が得意な指導者」と「男子への指導が得意な指導者」がいるようです。

なぜそのようなことが起こるのでしょうか？ 男子選手ばかり輩出している、ある空手指導者に聞いてみたことがあります。 「自分でも分からない」との答えで、なぜなのか自覚できていないようでした。このような、指導者と選手の相性はなぜ生じるのでしょうか？

以前、養正館道場では女子選手ばかりが育ち、私自身それがなぜかよく分かりませんでした。当時、こうやれば勝てるという“形の動き（体の使い方）”を見出したとき、それを子供達に習得させることが私の日課でした。長嶋茂雄監督は、「球がスッと来たら、バァッといってガンと打つ」のように指導したことで有名ですが、私は長嶋監督とは正反対で、クドクド長く説明し、体の動かし方も完全に決

めて、選手全員に決まったやり方を強要し、自由にやらせませんでした。

この指導法で、どんどんうまくなっていくのは女子ばかりで、なぜか男子は育ちませんでした。男子選手のママさんから「養正館では、勝つのは女子だけですよね」とお叱り（嫌味？）を受けたことをきっかけに、これではダメだと、女子と男子で指導の仕方を変えてみました。すると近年、男子も育つようになってきたのです。とはいえ、男子といっても、まだまだ「休憩中に走り回らずジッと座ってられる男子」のみです（男性脳をもつが、胎児のときに浴びたテストステロンが低濃度だったと考えられ、このような男子は男子全体の約15%を占める）。

今後の課題は、やんちゃで行動が荒っぽい完全な男子脳の選手に、どうやったら形の細かい動きを順序立てて、しかも前向きに覚えてもらえるかが課題です（このような子たちは、本当は、形ではなく組手に向いているのかもしれませんが……）。

#### ◆男子には端的に伝える

男子には言葉の説明は短く（もしくは無しで）、“動き”をビジュアルで見せた方が良く、女子には“言葉”で細かく解説した方が技術を習得しやすい傾向にあります。これは、男子は空間認知能力が高く、女子は言語能力が高いことに起因しているのかもしれない。また、男子は前頭葉（本能的欲求に対して抑

制をかける）の発達女子に比べて遅く、集中力を保って自制すること（抑制制御）が苦手です。これは、授業中に静かに座ってられない子が圧倒的に男子に多い理由のひとつとして数えられます。

長い説明をじっと止まって根気よく聞くのは、典型的男子脳を持つ男の子にはつらい作業です。職人の世界では、「技は見て盗め」と言いますが、男子には、手取り足取り細かく教えるより、長島監督的な、つまり「技は見て盗め」的な指導法の方が向いているのかもしれない。

現代はジェンダーフリーという考え方が全盛で、私もおおかた賛成しますが、子どもたちに明らかな生物学的性差があることもまた事実ですので、その差異を認識した上で、声掛けの仕方や、指導方法に細心の注意を払うことが、これからのジュニア指導では重要になっていくことでしょう。

#### PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。先代の病気をきっかけに養正館を継ぐ。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年全少5名入賞、2014年・2015年と2年連続で7名入賞、2016年5名入賞させ全国最多入賞道場となる。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



日本空手道鴻志会空手道場養正館／静岡県沼津市本田町11-12

## Column

### 養正館 今年の「全少」結果

全少が、8月6日、7日、東京武道館（綾瀬）で開催されました。今年の養正館の結果ですが、16名が出場し5名が入賞しました。5年になった江藤風沙選手は去年に引き続き優勝し、二連覇を成し遂げました。昨年は、この種目で倉岡穂乃花選手が準優勝し、全国1位、2位を養正館が獲得できましたが、今年は、倉岡選手が準決勝で（3-2）で敗れ、惜しくも3位となり、同門での1位・2位連覇はあと少しで達成できませんでした。来年は二人とも最後の全少です。ぜひもう一度決勝で対決してもらいたと思います。

#### ◆2016年入賞者・過去の全少成績

江藤 風沙：小1（3位）・小2（1位）・小3（5位）  
小4（1位）・小5（1位）  
倉岡穂乃花：小3（2位）・小4（2位）・小5（3位）  
望月 結以：小1（2位）・小2（3位）・小3（5位）  
勝又 蒼唯：小1（2位）・小2（2位）  
公門 里孔：小2（3位 初入賞）



- ◆5年女子形優勝 江藤風沙(後列左)
- ◆5年女子形3位 倉岡穂乃花(後列右)
- ◆2年男子形3位 公門里孔(前列左)
- ◆2年女子形準優勝 勝又蒼唯(前列中央)
- ◆3年女子形5位 望月結以(前列右)



去年、「オーストラリア全少」で小3男子形優勝・小3男子組手優勝した養正館出身でオーストラリア在住の「流石慶矢」君が、今年は、形2位、組手3位となりました。惜しくも優勝は逃しましたが、両種目での入賞、よく健闘しました。オーストラリアの全少は、2種目出られるのですね。

